

- 問1 スマートフォンや電気自動車のモーター、高性能な電子部品など、現代の先端技術を用いた製品の製造に欠かせない資源について述べたものとして、最も適切なものはどれか。 (2025年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 石炭や石油、天然ガスのように、地層の中に埋蔵されており、燃焼させることでエネルギーを得ることができる化石燃料。 | 2. 鉄鋼の原料となる鉄鉱石や、電線などに使われる銅といった、古くから工業製品の主軸となってきた主要な金属資源。 | 3. リチウムやコバルトなどに代表される、地球上の存在量が少ない、あるいは純粋な物質として取り出すことが難しいレアメタル（希少金属）。 | 4. ボーキサイトを原料として精錬され、軽くて加工がしやすいため窓枠や飲料缶などに広く利用されるアルミニウム。 |
|--|--|---|---|
- 問2 日本の農業統計において、広大な土地を背景に一農家あたりの耕地面積が全国で最も広く、ジャガイモなどの畑作物が大規模に栽培されている地域はどこか、次の中から選びなさい。 (2026年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 1. 北海道 | 2. 鹿児島県 | 3. 茨城県 | 4. 愛知県 |
|--------|---------|--------|--------|
- 問3 2020年の日本の貿易において、輸入総額に占める品目別割合の内訳を説明した文章として、正しいものはどれですか。なお、この年の統計では、電気機器や通信機といった「機械類」が全体の約27.1%を占めています。 (2022年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|--|-------------------------------------|
| 1. 原綿や羊毛などの天然繊維の原料が、輸入総額の過半数を占めている | 2. 繊維品が全体の約3割を占め、高度経済成長期と同様の構成となっている | 3. 機械類が約4分の1を占め、次いで石油、医薬品などが主な品目となっている | 4. 自動車や鉄鋼が輸入品目の上位を独占し、輸出額を大きく上回っている |
|------------------------------------|--------------------------------------|--|-------------------------------------|
- 問4 日本における人口密度の分布と、各地域の地理的条件の関連について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2022年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 山岳地帯が広がる地域では、自然環境が豊かであるために人口密度が1000人を超える傾向にある | 2. 三大都市圏の平野部では、商工業の集中により人口密度が1000人以上と非常に高くなっている | 3. 島根県や岩手県などの地方では、老年人口の割合が高いため、人口密度も三大都市圏より高くなる | 4. 北海道では広大な平野で大規模農業が行われているため、1平方キロメートルあたりの人口密度が日本で最も高い |
|--|---|---|--|
- 問5 日本の畜産で使われる飼料には、牧草などの「粗飼料」と、トウモロコシなどの「濃厚飼料」があります。これらに関する日本の現状を説明した文として、正しいものはどれですか。 (2023年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 濃厚飼料は日本国内で大量に生産されているため、トウモロコシの輸入量は年々減少している。 | 2. 豚や鶏の飼育では濃厚飼料が100%を占めるが、その国内自給率は約12%と低く、輸入への依存が顕著である。 | 3. 牛の飼育には濃厚飼料は全く使われず、国内で自給可能な粗飼料のみが使われているため、牛肉の自給率は100%である。 | 4. 粗飼料と濃厚飼料はどちらも国内で完全に自給できているため、飼料自給率の低さは日本の農業において問題になっていない。 |
|--|---|---|--|
- 問6 農産物の産地を比較した説明として正しいものを、次のうちから選びなさい。なお、データ上の特徴として、Aは北海道が収穫量の大部分を占め、長崎県が上位に入り、Bは鹿児島県と茨城県が収穫量の上位を占めているものとします。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------|-------------------|------------------------|----------------------------|
| 1. Aはじゃがいも、Bはさつまいもである。 | 2. Aはてんさい、Bは茶である。 | 3. Aはさつまいも、Bはじゃがいもである。 | 4. Aは乳牛の飼育頭数、Bは肉牛の飼育頭数である。 |
|------------------------|-------------------|------------------------|----------------------------|
- 問7 家計の消費支出において、1960年当時と比べて2010年の「消費支出に占める食料費の割合」が低くなっている理由として、当時の社会背景をふまえて説明したものとして適切なものはどれですか。 (2017年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 少子高齢化の影響で1世帯あたりの人数が減少し、家計における食料の消費量そのものが1960年当時の半分以下になったため。 | 2. 1960年代には食料自給率が極めて低かったが、2010年に向けて自給率が向上したことで安価な国産野菜が普及したため。 | 3. 経済成長によって国民全体の所得水準が上がり、支出の余裕が生まれて食料以外の教養・娯楽などへの支出割合が増えたため。 | 4. 農産物の輸入自由化が進んだことで食料品の価格が劇的に安くなり、家計における食料費の支出額がほとんどなくなったため。 |
|--|---|--|--|
- 問8 愛媛県松山市、栃木県宇都宮市、石川県金沢市の3都市の産業統計を比較した際、宇都宮市の製造品出荷額等が約2兆円弱であるのに対し、松山市は約4000億円、金沢市は約4000億円強となっています。この3都市の中で、人口一人あたりの製造品出荷額等が最も少ない都市はどこですか。 (2017年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 1. 金沢市 | 2. 宇都宮市 | 3. 高松市 | 4. 松山市 |
|--------|---------|--------|--------|
- 問9 日本の漁業は、1970年代半ばから遠洋漁業の漁獲量が激減し、その後、食生活の変化や国内生産の減少を補うための動きが見られます。1985年から1995年にかけて、日本の水産業統計において約100万トンから500万トン近くまで急激に増加した数値はどれですか。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|-------------|------------|------------|
| 1. 魚介類の輸出货量 | 2. 沿岸漁業の漁獲量 | 3. 魚介類の輸入量 | 4. 養殖業の生産量 |
|-------------|-------------|------------|------------|
- 問10 日本の山岳地帯に多く分布している水力発電所の立地条件として、地形と気候の観点から述べた説明のうち、正しいものはどれですか。 (2026年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 年間を通じて降水量が豊富で、河川の傾斜が急であり、大きな落差が得られる場所であること。 | 2. 大規模な冷却用ダムが建設可能であり、都市部への送電距離が最も短くなる平坦な場所であること。 | 3. 地熱貯留層が浅い場所にあり、年間を通じて一定の風速が維持される高原地帯であること。 | 4. 広い平地が確保でき、年間を通じて日照時間が長く、太陽光を遮る障害物がない場所であること。 |
|--|--|--|---|
- 問11 近年、日本の水産業において、食生活の変化や少子高齢化などの影響により、日本国内における水産物の需要や消費量が減少しています。このように、国内で消費される市場の規模が小さくなっていく課題を何と呼びますか。最も適切なものを次のうちから1つ選んでください。 (2022年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|------------|-------------|------------|
| 1. 国内市場の縮小 | 2. 栽培漁業の推進 | 3. 食料自給率の向上 | 4. 輸入規制の強化 |
|------------|------------|-------------|------------|
- 問12 1980年代後半以降の日本では、円高の影響などによって国内の企業が工場などの生産拠点を海外へ移転させる動きが加速しました。これにより、国内の製造業が衰退し、雇用機会が失われたり技術力が低下したりする問題が発生していますが、このような現象を何と呼びますか。 (2025年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|-------------|-----------|-----------|
| 1. 食料自給率の低下 | 2. 経済のサービス化 | 3. 貿易の自由化 | 4. 産業の空洞化 |
|-------------|-------------|-----------|-----------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 リチウムやコバルトなどに代表される、地球上の存在量が少ない、あるいは純粋な物質として取り出すことが難しいレアメタル（希少金属）。	レアメタルは日本語で「希少金属」と呼ばれ、地球上の埋蔵量が非常に少ないものや、技術的に抽出が困難な金属を指します。デジタル機器や環境対応車などの製造に不可欠であり、「産業のビタミン」とも例えられる重要な資源です。
問2	答え 1 北海道	北海道は、他の都府県と比較して一農家あたりの耕地面積が極めて広く、大規模で機械化された農業が行われているのが最大の特徴です。気候や土地条件を活かした畑作が盛んで、特にジャガイモ（馬鈴薯）の収穫量は全国の大部分を占めています。
問3	答え 3 機械類が約4分の1を占め、次いで石油、医薬品などが主な品目となっている	現代の日本における貿易構造は、かつての「原材料を輸入して工業製品を輸出する」という加工貿易から変化しています。2020年時点では、通信機や電子部品などの機械類が輸入の約4分の1（27.1%）を占める最大品目となっており、これにエネルギー資源である石油（8.7%）や、生活に不可欠な医薬品（4.7%）などが続いています。
問4	答え 2 三大都市圏の平野部では、商工業の集中により人口密度が1000人以上と非常に高くなっている	人口密度は、その地域の地形、交通の利便性、産業の集積状況を反映します。三大都市圏（東京・名古屋・大阪を中心とする地域）の平野部は、日本の経済活動の核であり、人口が過密状態にあるため、人口密度は非常に高くなります。一方で、島根県や岩手県などの地方や山岳地帯、および広大な面積を持つ北海道は、1平方キロメートルあたりの人口が190人未満などの低い数値を示すことが一般的です。
問5	答え 2 豚や鶏の飼育では濃厚飼料が100%を占めるが、その国内自給率は約12%と低く、輸入への依存が顕著である。	日本の飼料自給率は全体的に低い傾向にありますが、特に豚や鶏で100%使用される濃厚飼料（トウモロコシなど）の自給率は約12%と極めて低くなっています。一方で、牛などの反芻動物に使われる粗飼料（牧草など）は、濃厚飼料に比べれば国内自給率が高いものの、畜産全体で見れば依然として輸入飼料への依存が大きな課題となっています。
問6	答え 1 Aはじゃがいも、Bはさつまいもである。	じゃがいもとさつまいもは、どちらも日本を代表するいも類ですが、栽培に適した環境が異なります。じゃがいもは冷涼な気候を好むため北海道が主産地となりますが、さつまいもは温暖な気候を好み、火山灰地でも育ちやすいため、鹿児島県のシラス台地や茨城県の台地での栽培が盛んです。この産地の違いは、中学地理における農産物の判別のポイントとなります。
問7	答え 3 経済成長によって国民全体の所得水準が上がり、支出の余裕が生まれて食料以外の教養・娯楽などへの支出割合が増えたため。	家計の消費支出に占める食料費の割合は、一般に生活水準が高くなるほど低くなる傾向があります。1960年当時は、支出の多くを食料に割かなければならない状況でしたが、その後の経済発展によって家計に余裕が生まれた結果、レジャーやサービス、通信費など、食料以外の多様な分野に支出が分散されるようになりました。この統計的な傾向は、地域の生活の変化を捉える重要な指標となります。
問8	答え 4 松山市	3都市の製造品出荷額等を比較すると、北関東工業地域に属し内陸工業が盛んな宇都宮市が突出して多くなっています。一方、松山市と金沢市は出荷額が近い数値ですが、松山市は四国地方で最大の人口を抱える都市であるため、製造品出荷額を人口で割った「一人あたりの額」を算出すると、3都市の中で最も値が小さくなります。
問9	答え 3 魚介類の輸入量	1970年代のオイルショックによる燃料費高騰や、各国が沿岸から200海里（約370km）の排他的経済水域を設定したことにより、日本の遠洋漁業は大きな打撃を受けました。国内の漁獲量が減少する一方で、日本人の魚介類消費を支えるために、1980年代後半から海外からの輸入が急速に拡大しました。
問10	答え 1 年間を通じて降水量が豊富で、河川の傾斜が急であり、大きな落差が得られる場所であること。	水力発電は、高い場所から流れる水のエネルギーを電力に変えるため、地形の「落差」と「水量」が重要になります。日本は中央に山脈が走り、急峻な地形と季節風による豊富な降水があるため、山岳地帯が水力発電に適しています。かつては日本の発電の主役でしたが、現在はダム建設に適した場所が少なくなっています。
問11	答え 1 国内市場の縮小	日本では、人口減少や食生活の変化によって国内での水産物の需要や消費量が減少し続けています。この現象は「国内市場の縮小」と呼ばれます。
問12	答え 4 産業の空洞化	円高が進むと、日本製品の輸出価格が上がり国際競争力が低下するため、企業はコストの低い海外での現地生産を増やしました。この結果、国内の工場が閉鎖されたり縮小したりして、製造業を中心に国内産業の衰退を招くことになりました。この現象は、あたかも国内産業の中身がなくなってしまう様子に例えて呼ばれます。